

## 『日本語歴史コーパス 奈良時代編Ⅱ 宣命』の公開

呉寧真, 池田幸恵, 須永哲矢, 小木曾智信

本発表では、『日本語歴史コーパス 奈良時代編Ⅱ 宣命』の構築と公開について報告する。本コーパスは国立国語研究所の共同研究プロジェクト「通時コーパスの構築と日本語史研究の新展開」の成果の一つとして、2020年3月に短単位・長単位・多重形態論情報データコーパス検索アプリケーション「中納言」上で公開された。

本コーパスは『続日本紀』の宣命部分を収録している。奈良時代の歴史書『続日本紀』には62編の宣命があり、語数は約2万語である。和文資料の少ない上代において、和文体であり、一字一音の万葉仮名をも用いる宣命は極めて貴重な資料である。原文は漢字と万葉仮名が用いられているが、本コーパスの校訂本文では、北川和秀(1982)『続日本紀宣命一校本・総索引』をもとに、原文を読み下し、句読点を付与した漢字仮名交じり文を用いた。そのため、宣命書きに通じた宣命研究者だけではなく、専門外の研究者にも読みやすい。一方で、『日本語歴史コーパス 奈良時代編Ⅰ 万葉集』と同じく、「中納言」の検索画面では宣命書きの原文が「原文 KWIC」「原文文字列」に復元されるため、原表記が確認できる。

また、本コーパスの特徴として、難読の漢文熟語表記、地名と数詞に訓読と音読を同時に付与した。これは、掛詞や洒落などに対応するために本文の同一箇所複数の読み・形態論情報を付与できるようにした機能によるもので、『日本語歴史コーパス』の「八代集」や「洒落本」で用いられた。宣命は独特な読みが多く、従来他の資料と統合しにくいのが、本コーパスは訓読と音読を同時に付与することで、通時的な検索がしやすくなった。既に公開されている奈良時代編から明治・大正各時代編のサブコーパスを併せ活用することで、共時的、通時的な語学研究に貢献できることが期待される。